



『かなひろい② (花咲か爺さん)』

楠山正雄の作品を読みながら「か・き・く・け・こ」に

○をつけましょう

むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが
ありました。しょうじきなひとのいいおじいさんとおばあさ
んどうしでしたけれど、こどもがないので、かいいぬのしろ
を、ほんとうのこどものようにかわいがっていました。しろ
も、おじいさんとおばあさんに、それはよくなついていまし
た。すると、おとなりにも、おじいさんとおばあさんがあり
ました。このほうは、いけないよくばりのおじいさんとおば
あさんでした。ですから、おとなりのしろをにくらしがって、
きたならしがって、いつもいじのわるいことばかりしていま
した。あるひ、しょうじきおじいさんが、いつものようにく
わをかついで、はたけをほりかえしていますと、しろもいっ
しょについてきて、そこらをくんくんかぎまわっていました
が、ふと、おじいさんのすそをくわえて、はたけのすみの、
おおきなえのきのきのしたまでつれていって、まえあしでつ
ちをかきたてながら、「ここほれ、ワン、ワン。ここほれ、ワ
ン、ワン」となきました。

○の数 合計 _____ 個

※かなひろい②の解答は、3/10 に発表します！

